企業名：　　東レ

レポート名：　東レレポート２０２２

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

東レの統合報告書では 30p 超に渡ってサステナビリティや環境問題に対する取り組みやビジョンについて記載されており、SDGs の遵守に重きを置く企業であることがよくアピールされていた。“中期経営課題プロジェクト AP-G 2022”、“長期経営ビジョン TORAY VISION 2030”,といった中長期プログラムの目標や、そのための基本戦略や取り組みやその基準、現状が細かく記載されており、具体値を用いた説明をしているので東レが目指す企業像というものは非常によく伝わってきた。また、「フェムテック」と呼ばれる東レが行っている女性の社会進出を促進する取り組みについても社員の対談といった形で行われており、読みやすく詳細がよくわかるものになっていた。

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

私の感想としては、「高度な技術と弛まぬ研究の成果による、循環可能な世界を実現する素材」が強みなのではないかと感じた。海水淡水化技術を利用した、生活用水の供給などはその一例だろう。あとは、取得特許の圧倒的な多さが挙げられる。全体的に技術力の高さを競争優位性として打ち出している印象があった。「他社牽制力ランキング 2021」での紙・繊維・パルプ部門での １０ 年連続の首位はその技術力の高さを物語っているだろう。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

持続性についても十分理解できる内容であった。特許の価値について数値化したグラフが記載されており、そのグラフでは東レの特許価値は右肩上がりであった。視覚的に表現されていたので非常に理解しやすかった。また、SDGs 問題が今後のトレンドになっていくと予想される中で、持続可能な社会を可能にする商品開発にフォーカスを当てていることからも競争優位性の持続性もとても高いものであることが予測できる。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

正直、人材マネジメントについての記述が 100p 中 4p のみであり、そのうち 3p は前述した女性の社会進出に対する取り組みについてであったため、イメージがとてもしづらかった。人材育成の目的を、「公正さと倫理観・責任感を持って行動できる社会人の育成」、「高度な専門知識・技術を持ち独創性を発揮するとともに現実を直視し課題を解決できるプロフェッショナル人材の育成」、「先見性・リーダーシップ・バランス感覚を持って行動できるリーダーの育成」を挙げていたがそれを実現させる方法やノウハウについての説明がなく「自分が東レに入って何ができるか？」といったことを考えることもできなかった。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

「超継続」、「グリーンイノベーション」「ライフイノベーション」といったキーワードを多用しており、強みについては一読して頭にとても残りやすかったし読みやすい文章であった。また非財務ハイライトにおいて決算短信には乗らない強みをグラフで数値化している点が非常に良いと感じた。持続可能な社会に向けての取り組みを、財務、非財務の両観点からわかりやすく説明していたと思う。しかし、読んでいて一番気になったのは財務ハイライトにおける翌年度の見通しの甘さとその根拠が記載されていないことである。統合報告書では 2022 年度の親会社株主帰属の当期純利益の見通しを 1000 億円程度に見積もっていたが、2023 年 5 月の決算短信を見ると、実際には 728 億円と大きく見積と乖離している。

統合報告書にはなぜ 1000 億円に見積もりをしたのかという理由も展望も書かれていなかった。ウクライナ戦争は 2022 年 2 月には始まっており、長期化というイレギュラーはあるものの成長鈍化についてはある程度予測可能であったと私は考える。250 億超の見積との乖離はあまりに大きく、ステークホルダーの失望もより大きなものになってしまう。なぜそのような数値を見積ったのか？という説明が必要だろう。また、統合報告書が 100p とながく、後方 20P 程度の財務データについては削っても良いのではないかと感じた。